



令和3年度学校だより1月号

東の風光る

歴史と文教の城下町 たかなべ 高鍋町立高鍋東中学校

Municipal Takanabe East Junior High School

自立の精神に燃え、広く敬愛する心を持ち、たくましい創造力を発揮する生徒の育成



正月の事始め

新年を迎える支度は12月13日から始め、まず、汚れを落とし清める大掃除から、そして門松とかが準備されます。

高鍋東中生には、伝統活動の一つ、いつも熱心に取り組む無言清掃があります。今年一年をじっくりと振り返り、一年の汚れをとることで、しっかり新しい気持ちで新年を迎えてほしいと思います。



県中学生人権作文コンテスト最優秀賞

本校1年生の作品がみごと県で最優秀賞を受賞しました。新聞でも掲載されましたが、県知事から直接表彰状が贈られました。おめでとうございます。改めて作品を紹介させていただきます。私たち大人も含めて、さらに人権意識を高めたと思います。

私は、生まれて6か月の時血液検査をして、食物アレルギーと診断された。乳製品、卵、小麦、えび、かに、たこ、いかに食物に対してアレルギー数値が高いことが分かった。そのとき私は、母乳で育っていたため、母は、これらの食物を除去して食事をしていたようだ。3歳のとき、保育園で間違えて牛乳を二口飲んでしまった時に、呼吸困難になった。それからは、病院に行くような、「はっ」とするようなことが何度もあった。

食物アレルギーになると、不便なことが多い。例えば、スーパーに行っても、ほとんどのアイスに乳製品が入っていて食べることができない。おかしも、だいたい同じ物しか食べられないかチェックしないといけない。他にも、お土産をもらうときに、どれも食べることができないときに、悲しい気持ちになる。そのとき、かわいそうな目で見られるのも、つらい。

そんな中、温かい気持ちになったことがあった。それは、ショッピングモールで昼ご飯を食べようとした時のことだった。私は、食べたいものがあって、それが食べられるか不安だったので、母に聞いてもらったら、いそがしい中奥から店長さんがわざわざ来てくれて、アレルギー成分表を一緒に確認してくれた。優しく親切に対応してくれたおかげで、安心しておいしく食べることができた。食べ終わった後、食器を返却しに行くと、その店長さんが「大丈夫だった。」と声をかけてくれた。私の心が温かくなった。もしかしたらその店長さんも身近に食物アレルギーの方がいるのかなと思うくらい、私の気持ちを考えてくれたことがうれしかった。

私は、小学生になってしばらく弁当だったのが、小学5年生で、初めて給食を食べることができるようになった。初めての給食は、カレーライスとフルーツポンチだった。おいしくて、いまでもそのときのことを覚えている。全部食べきれないか不安だったけど、おいしくてペロりと食べることができた。みんなと同じ給食が食べられた。そのことが本当にうれしかった。それから給食が大好きになった。

学校でSDGsについて学んだ。その中でも、10番「人や国の不平等をなくそう。各国内及び、各国間の不平等を是正する。」が気になった。なぜかという、私に関係があると思ったからだ。平等とは、差別がなくみな等しいことである。私はこの世の中でみんな等しいとは思わない。なぜなら、私のような食物アレルギーの人が少ないからって、私のような子ががまんすればいいなんて、平等じゃないと思ったからである。

「誰一人取り残さないこと」この言葉は、SDGsの前文に書かれた言葉だ。私はこのような世の中になってほしいと思う。アレルギーの子でも平等に笑顔で暮らせる世の中に、こんな世の中になるためには、店長さんのような優しい人がたくさんいると実現するのではないかと思った。

私には、一緒に遊ぶときに、私に合わせて私が食べることができるお店を選んでくれる優しい友達がいる。私が食べたかった乳製品めきの料理を作ってくれる家族がいる。みんなと一緒に食べることができる給食の先生方、いつも給食で失敗がないように、気づかせてくださる先生やクラスの友達、すべての人に感謝している。

大切なことは、相手を思いやり想像すること。世界中のすべての人が、平等で幸せに暮らすことのできる世界になることを願っている。

修学旅行

12月初旬に3年生が無事県内1泊2日で行って来ました。2年生の時から延期延期でしたが素晴らしい学びと楽しい思い出をつくって来ました。



赤江地区平和学習

赤江地区平和学習を行って戦争というのは本当に悲しくつらく、苦しいことだということを知ることができました。掩体壕の中に入り、掩体壕はどのように使われたか、どんな人が作ったかなど詳しく知ることができました。私が一番驚いたことは、掩体壕は中学生が造ったということです。自分が掩体壕を造る立場だったら耐えられないだろうと思いました。鹿児島だけでなく宮崎にも特攻隊の方々がいたことを初めて知りました。長崎県出身の特攻隊員の方の手紙を読んだ時、とても悲しい気持ちになりました。戦争で何百万人の人も亡くなり、戦争に関係ない人が何十万人も死にました。このことはこれから消えてはいけぬ語り継がなければいけない過去だと強く思いました。



飢肥

宮崎県内にこんなに素晴らしい歴史が街に出ている所があることを知って驚きました。自分はコロナがなかったら京都に行きたいと思っていたので、少しだけ京都に似ているところに行くことができて良かったです。また、飢肥城の大手門や松尾の丸、昇る階段からものすごい歴史を感じることができて楽しかったです。小村寿太郎の資料館は見ることができなかったけど、また飢肥に行く機会があったら、次はもつとじっくり探索したり、歴史を学びたいです。最後に見た鯉も色が鮮やかで見ていてとても落ち着く色などで、また見てみたいと思いました。これからは、飢肥のようにできないかもしれないけど、高鍋の歴史も自分たちが伝えていけるようになりたいです。



青島

赤海がとてもきれいでした。お参りをしました。そのお願い事が叶うといいなと思っています。すごいジャングルみたいなのにも入りました。日本ではないみたいでジャングルみたいだったけど、緑がたくさんあってきれいでした。かくれハートも少し見つけられて嬉しかったです。自由行動の時はたくさん写真を撮りました。海をバックに撮ったり、青春みたいに撮ったりしました。すごく青春している感じがあって嬉しかったし、とても楽しかったです。友達がおみくじをひいて楽しそうだったので良かったです。黄色いポストもかわいかったです。お土産屋さんでお土産をたくさん買いました。いろんな種類があって迷ったけど良いものが買えて良かったです。

修学旅行を終えて

何度も延期を余儀なくされ、行く場所も何度も変更され、それでもこうして行けたことを嬉しく思うし、今までこの日のために一生懸命動いてくださった先生方、保護者の皆様、とても感謝しています。また一つ卒業へと一歩進んだことを感じ、とても寂しく思います。今回の修学旅行で柱として掲げられていた3つの「郷土愛」「社会性」「平和」を意識し、かつ楽しい思い出をたくさんつくることができました。その場その場に合わせた態度や言葉遣いを意識し、自分たちだけではなく、周りの人たちも不快にならないよう心がけることができました。赤江では、戦争の悲惨さと平和の大切さ、飢肥では、現在と昔の共存、青島では自然の美しさや社会性、フェニックスと科学技術館では、社会性と思いつくりについて学ぶことができました。この思い出を胸に、次は入試へと足を向け、努力していきたいと思っています。カメラでは写せなかった様々な光景や場面は、今でも記憶の中に色濃く残っています。

2学期を振り返って

学校の行事として、体育大会、合唱コンクール、修学旅行、ロードレース大会がありましたが、生徒たちはそれぞれの行事に真剣に取り組む、様々な葛藤がある中でも切磋琢磨し、一步一步成長してきていると実感します。これもご家庭でのご支援があってこそだと思っております。3学期に向けて、さらなる成長を楽しみにしたいと思います！！



【後記】 県内修学旅行は初めての経験で、県内でも知らないことばかりだと改めて思いました。生徒たちのほじける笑顔を見ることができてとても幸せな時間を過ごすことができました！（校長）

※ この学校だよりについては、生徒が活躍する場面について、氏名やアップ写真を積極的に紹介したいところですが、ホームページに掲載する関係で掲載しないようにしていることをご理解ください。
高鍋町立高鍋東中学校 〒884-0002 児湯郡高鍋町大字北高鍋3321番地 ☎:0983-23-0046 Fax:0983-22-3437 ※ 生徒たちの様子をぜひ学校ホームページでもご覧ください。